

光徳だより 臨時号

令和6年度 学校教育アンケートのご報告

令和7年 3月
京都市立光徳小学校
校長 田村 竜一

弥生の候、春の温かさが待ち遠しい頃となりました。平素は本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。今年度、本校で重点的に取り組んできた内容につきましてご報告をさせていただきます。

今年度、光徳小学校では学校教育目標を

『自ら学び 自信と誇りをもち 共に高め合う子の育成』

～かしこく やさしく 元気よく～

と設定し、学校教育を進めてきました。この目標を達成させるため、本校では知・徳・体の3つのプロジェクトを立ち上げ、職種問わず、全教職員が3つのプロジェクトのいずれかに所属し、一丸となって取り組んでいます。

さまざまな取組を考えたところで、実際に活動していくのは子どもたちです。4月当初、わたしたち教職員の子どもたちへの願いや思いを全校集会で伝えました。子どもたちに話す際には、分かりやすくするため、

「かしこくチーム(知プロジェクト)」

「やさしくチーム(徳プロジェクト)」

「元気よくチーム(体プロジェクト)」

と3つのチームとして伝えています。

子どもたちはこの一年間、家庭学習やあいさつ、なわとびの取組など、さまざまなことに挑戦してきました。そして、力を伸ばしてきました。本校では、取組の成果や状況を見るため、定期的に子どもたちにアンケートをとっています。一年間継続して取り組んだことによる子どもたちの頑張りがアンケートの結果として表れました。今回は、子どもたちの頑張りによる成果を保護者の皆様にお伝えします。また、この結果は子どもたちにも全校集会で紹介しています。

保護者の皆様におかれましては、学校での取組を理解し、支えてくださったことに感謝しています。4月から始まる新年度も子どもたちのため、取組内容を考え進めていきたいと考えます。今後ともよろしくお願いいたします。

知プロジェクト かしくくチーム

〈目標〉 自ら学び、よく考え、学び合える子

〈主な取組とねらい〉

家庭学習の形を全校で統一

家庭学習計画書の取組

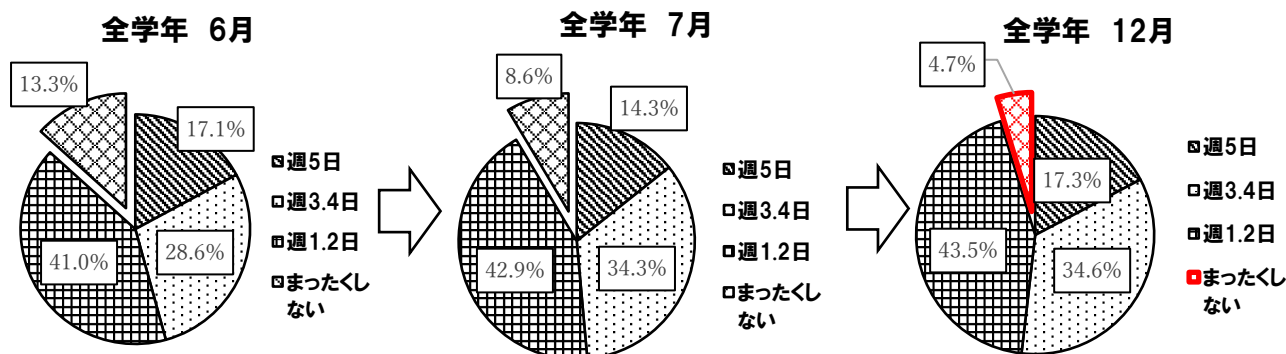
スキルアップ学習の取組



子どもたちが自分で計画的に学習を進めたり、めあてに向かって取り組んだりすることで
子どもたちの主体性を高める

〈一年間の取組の結果〉

児童アンケートでは、「先生やお家の人、習い事の先生など、ほかの人に言われたこと以外の学習をしている」かどうかを尋ねました。「まったくしない」と答えた割合を見ると、4.7%へと減少しています。「週 5 日以上取り組んでいる」「週 3.4 日取り組んでいる」と答えた児童の割合を合わせると、51.9%に増加しており、学校全体の半分以上の児童が、進んで学習に取り組むことができるようになっています。



2 学期以降は、スキルアップ学習の交流会を自分のクラス、学年だけでなく、他の学年



としたり、たてわりグループで紹介しあったりと、自分の学習の
がんばりを他の学年に伝える機会ができました。また、スキルア
ップ学習ノートの掲示や先生賞を通して、それぞれのがんばりを全校に見えるようにし、他
の学年がどのように取り組んでいるのかを知ること、スキルアップ学習の取組の仕方
の工夫につながるようになってきました。



1 年間の取組を通して、「計画を立てて学習に取り組むこと」「めあてを決めて学習すること」「自分で調べて
まとめること」が習慣化したように思います。これからも引き続き、自分に必要な学習は何か、課題や問題は何か
を考え、それに合わせた学習方法を選んだり、取り組み方の工夫を考えたりする意識をもって学習に取り組んで
ほしいと思います。

文責：森本 真緒

徳プロジェクト やさしくチーム

〈目標〉 心やさしく ひとを大切にする子 ～自ら進んであいさつし、相手の気持ちに寄り添う子～

〈主な取組とねらい〉

- ・あいさつレベルアップシートの取組
- ・委員会でのあいさつ運動
- ・朝会でのあいさつの呼びかけ

- ・たてわり活動
- ・名札着用の声かけ
- ・教職員が子どもの名前を呼んであいさつをする
- ・担任以外の教職員による読み聞かせ



「いつでも」「だれにでも」あいさつできる子



人の名前を覚えて人を大切にできる子



子どもたちが「自分の存在が認められている」と感じ、自ら他者との関わりをもとうとする

〈一年間の取組の結果〉

◎「いつでも」「だれにでも」あいさつのできる子

「おはようございます」のあいさつはもちろん、それ以外のあいさつの定着が図れたことが以下の児童アンケート結果より分かります。また、学校生活の中でもすれ違う先生や来校者（PTAや業者の方）にあいさつをしている児童もよく見かけるようになりました。相手意識をもって過ごすことができるようになってきています。

「朝以外にあいさつができる」

低学年・・・４９％から **７９％**
中学年・・・８９％から **９０％**
高学年・・・８５％から **９２％**
全校・・・７９％から **８６％**

児童アンケート結果より

◎たてわり活動を通して名前（友達・先生）を覚えることのできる子

たてわり遊び・掃除・読み聞かせ、たてわり遠足などたくさんの「たてわり活動」を通して学年の友達、異学年の友達との関わりを大切に、取り組みを進めてきました。このようにたてわり活動を中心に取り組むことで、高学年は低学年の友達への接し方、低学年は学校生活の中でたてわり班の友だちを見つけると嬉しそうに声をかける姿など、相手意識をもった人を大切にしている姿をたくさん見ることができました。（児童アンケートの結果からも子どもたちが他学年の子どもの名前を覚え、関わりをもてるようになったことが分かります）

「人の名前を覚えている」（全校）

（たてわり班のメンバーをふくむ他学年）

１～１０人・・・３３％
１１～２０人・・・３１％
２１人～３０人・・・２３％
３１人以上・・・１３％

児童アンケート結果より



「やさしくチーム」の１年間の取組にご理解、ご協力ありがとうございました。

文責：金田 織絵

体プロジェクト 元気よくチーム

〈目標〉 元気でたくましい子

〈主な取組とねらい〉

さまざまな遊びの紹介 なわとびの取組 遊び用具の充実 休み時間の体育館開放 ロング中間休み設定

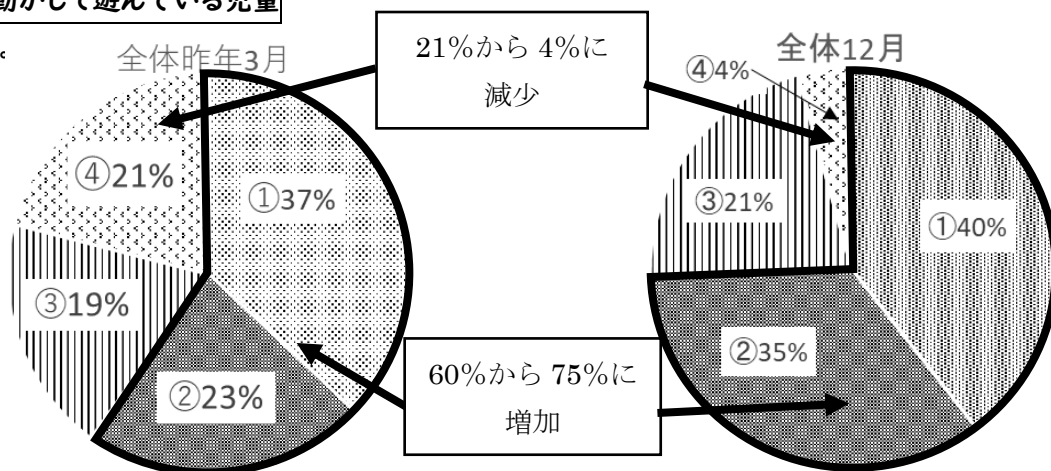


子どもたちが体をいっぱい動かして遊び、元気に過ごすことができる

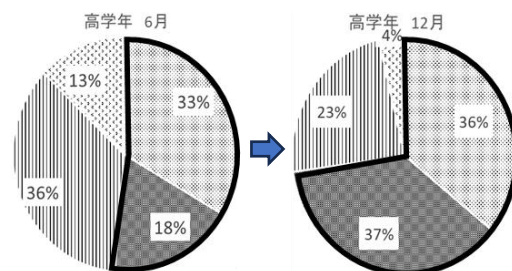
〈一年間の取組の結果〉

児童アンケート 体を動かして遊んでいる児童

- ① 週に 5 日以上 している。
- ② 週に 3・4 日 している。
- ③ 週に 1・2 日 している。
- ④ まったく していない



低学年・中学年・高学年全てにおいて、体を動かして遊んでいる子どもの増加が見られました。また、まったく遊んでいない子どもの数も大きく減少しているのが分かります。特に、高学年の伸びが大きく、「週に 5 日以上遊んでいる」「週に 3・4 日遊んでいる」と答えた子どもが 6 月のアンケートでは、51%でしたが、12 月のアンケートでは 71%となり、20%以上増加させることができました。



これら結果の要因として、運動委員会の子どもたちが、なわとびやボール遊びに行くよう友だちに声をかけたこと、大縄大会や短縄大会を開いたこと、また、新しい遊び用具（バスケットボールやバドミントン、ローリングペダル等）を充実させたことが考えられます。

さらに長期休暇中の課題として、なわとびカード取り組んだことも結果につながったと考えています。学校だけでなく、ご家庭でも保護者の皆さんが温かく見守り励ましの言葉をかけてくださったことで、跳ぶ回数を増やしたり新しい技を習得させたりする子どもが増えました。

今まで体を動かして遊ぶ機会が少なかった子どもたちが運動場や体育館で遊ぶようになり、元気に過ごすことができました。今後とも学校と保護者の皆さんと一緒に子どもたちの成長を見守っていかれたらと思います。

文責：中本 優